ヨハネによる福音書 2章13〜22節

今月の聖書の箇所は「神殿」に関する箇所で、今日(こんにち)の私たちにとっては、それはすなわち「教会」に関するところと言えるでしょう。

しかし、一読してお分かりのとおり、イエス・キリストが神殿の境内で鞭(むち)を振るい、商売人たちを叱責される有(あ)り様(さま)はなんともスキャンダラスで、衝撃的でさえあります。その意味で、私たちが馴染(なじ)み親しむイエスの姿からすると、理解の少々厄介な箇所と言えるかもしれません。ですが、これもまた、聖書の一部です。選(え)り好(ごの)みをして、読み飛ばすわけにはいきません。注意して丁寧に読み進めるとき、そこからはたして 何が見えてくるでしょうか。

宮清め

・どこか異様にさえ映る、今月のイエス・キリスト。ここに見るその姿は間違いなく、憤りのそれではないでしょうか。いったい、何に憤られたのか？ 問題はそこにあるように思われます。

〔参考〕どうにも否定しがたい、一つの事実：信仰の中身を置き忘れ、偽善と外側の飾りに囚(とら)われた当時のユダヤ教指導者たちに、イエスが一貫して立ち向かわれたこと。

・ちなみに、他の 3 福音書は同様の出来事を、並行記事としてそれぞれ、以下の箇所に記しています。

①マタイによる福音書：21章12〜13節

②マルコによる福音書：11章15〜17節

③ルカによる福音書：19章45〜46節

ここから分かるのは、文書の後半に出来事を記すこれらの福音書に対し、ヨハネは極めて初めの部分にそれを配している、ということです。そこに はたして、ヨハネのどんな編纂(へんさん)意図があったのでしょうか。この問題については、最後にまた改めて、御一緒に考えることにしましょう。

・今回の箇所は通常「宮清め」と呼ばれる場面ですが、何はさておき、そこに描かれたイエス・キリストの姿に想いを寄せたいと思います。私たちはそこから どんなことを読み取り、信仰の何を学ばされるでしょうか：イエス・キリストを信じるとは？ どんな主イエスを信じるのか？ そして、その主に従って生きるとは？ 等々。

・理解の前提として、事の背景を見ておきましょう。要約すると、次のとおりです。

①時期は「過越祭(すぎこしさい)」間近の時、と 13節に記されています。

過越祭とはユダヤの 3 大祭りの一つで、旧約時代にイスラエルの民が奴隷のエジプトを脱出したのを記念するものです。年に一度の大祭(たいさい)で、エルサレムの近郊約 30 キロ以内に住むユダヤ人の成人男性はすべて、参加を義務づけられていました。

さらには、国外に散らばったユダヤ人もエルサレムに集まりました。その数は数十万に上(のぼ)り、時には百万単位になることもあったと言われています。

②場所は、エルサレムの「神殿の境内」(14) です。

そこで、宮清めの出来事が起こされたのでした。

「神殿の境内で牛や羊や鳩(はと)を売っている者たちと、
座って両替をしている者たちを御覧になった」(14)

・事の次第はこうです。

・そこには、「牛や羊や鳩を売っている者たち」がいました。犠牲の献(ささ)げ物(もの)に使う動物です。

遠来の人々にとって、動物を連れてくることは困難だったからです。そうした人々のため、動物を手に入れる手近な場所が必要でした。

ただし、神殿の外で買った動物は、それらが傷のない 清く完全なものか、入り口でチェックするシステムが作られていました。しかも、チェック料付きです。

そこでパスできなかった場合、その動物は持ち込みを拒否され、境内で改めて 犠牲の動物を買い直さなければなりません。境内では、外の倍近い値段で動物が売られていました。

・神殿の境内には また、「両替をしている者たち」もいました。神殿税を納めたり、献金をしたりする場合、特定の硬貨でだけそうすることが許されていたからです。

その理由として、２つの可能性が推察されています。

①外国の硬貨はほぼ例外なく、皇帝の肖像や異教のシンボルが表面に刻まれていた。それらは日常の通貨としては認められたものの、神殿での使用は、汚(けが)れていて清くないとの理由から 許可されなかった。

だだし、学者によっては、別の見解を採る人たちもいます。すなわち、

②特定の硬貨に限定したのは、国や場所によって、金や銀など希少金属の含有量の好(い)い加減(かげん)なものが少なくなかったからで、硬貨の質を一定にするためだった。

それらの学者曰(いわ)く、「神殿の関係者は硬貨をすべて溶かして、金属の塊(かたまり)にした。だから、彼らにとっては、硬貨の表面に何が刻まれていようと 実のところ、どうでもよかった。問題は硬貨の値打ちだったのだ」

いずれにせよ、両替屋が神殿の境内で商いをしていました。ここでもまた、両替料として高い手数料を取ったうえ、釣り銭料としてもう一度 高い手数料を取って。

〔参考〕紀元前 54 年、ローマ帝国の将軍 クラッススがエルサレムを占領。神殿から（現在の額で）20 億円にも及ぶ蓄財を奪ったと伝えられる。さらに、「それでも、それがすべてではなかった」と語る学者も。

・このような背景と実情を知るとき、私たちはそこから、どんなことを考えさせられるでしょうか：これらははたして、純粋に神殿礼拝のためだけの制度だったのか？ 関係者の思わくがそこにありはしなかったか？ こうしたあり方の根にある落とし穴とは いったい、何なのか？ 等々。

・イエスが神殿に赴かれたとき その目に入ったのは、まさに こうした有(あ)り様(さま)でした。

そこで、

「イエスは縄で鞭(むち)を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し」(15)

・イエスは尋常でない、なんとも激しい態度を示されます。そこに見られるのは何でしょうか。何事かに対する抑えがたい熱情ではないでしょうか。

・であれば、イエスはなぜ、このように振る舞われたのか。何に憤られ、何を示そうとされたのか。そう考えさせられます。

・そして、それはとりもなおさず、イエスが根本的なこととして 何を最も大切に見ておられたかということ、そこに理解のかぎがあるように思われます。

・イエスを突き動かしているのは はたして、どんな思いなのでしょうか。

「わたしの父の家を商売の家としてはならない」(16)

・ところが、そう考えて 聖書の本文をいま一度 丁寧に見てみると、一つの興味深い事実に気づかされます。それは、ヨハネ福音書の場面の描(えが)き方(かた)が他の 3 つの福音書と微妙に違っていることです。次のとおりです。

①マタイ、マルコ、ルカの 3 福音書：「あなたたちは、祈りの家を強盗の巣にしてしまった」(マタイ 21：13、マルコ 11：17、ルカ 19：46)

②ヨハネによる福音書：「わたしの父の家を商売の家としてはならない」

・違いは 一見、さしたるものでないようにも見えます。しかし、本当にそうなのか。ヨハネが他と異なる表現をしたということの中に、何かしら重要な意味合いがありはしないか。宮清めの出来事を見るヨハネの見方に、他の 3 福音書と違うものがあったのではないか。そして、もしかすると そこに、ヨハネがここで伝えたいことのかぎが隠されているのではないか・・・。そんなふうにも思わされます。

・だとしたら、ヨハネはなぜ、「強盗の巣」ではなく「商売の家」という言い方を選んだのでしょうか。興味のつのるところではないでしょうか。

〔参考〕

・動物の売り買い：神殿の境内で。

　両替：神殿の境内で。

・具体的には、境内の最初の庭である「異邦人の庭」で。

・異邦人の庭：異邦の国々からやってきた求道外国人のための礼拝の場。

・どちらも はたして、神殿の外ではいけなかったのか？

「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる」(19)

・こうして、今月の場面は衝撃的な言葉で閉じられます。

　19 節の、イエス・キリストの言葉です：「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる」

・それは、イエスを問い詰める当のユダヤ人たちに向かって言われた言葉でした。
・そして、そこには、単なる文字面(もじづら)以上の意味が含意されてもいました。
・ここでの「神殿」とは いったい、何を意味しているのでしょうか。
①一つには、「イエス御自身の体」と言えるでしょう。21 節で、ヨハネが説明しているとおりです。
②が それだけでなく、そこからさらに（イエスの思いの含意として）想像できることはないか？
・その神殿を「壊す」とは いったい、どういうことでしょうか。
①イエスを十字架につけて「殺す」ということが一つでしょう。
②しかし また、当時のその時代的実情として、さらにも深い意味合いをそこに見て取ることはできないか？
・そして、壊れた神殿を「三日で建て直す」とは はたして、どういうことなのでしょう。
①一つには、22 節にあるように、「イエスの復活」が意味されていると言えます。
②が ここでもまた、それ以上の意味合いがそこ置かれていると考えることはできないか？
・宮清めの記述はこのようにして終わりますが、これら一連のやり取りから、現在の私たちはどんなメッセージを聴き取るでしょうか。神殿、商売、崩壊、回復と続く文脈から・・・。

終わりに

・最後に、冒頭で触れた 他の 3 福音書との対比問題に戻ることにしましょう。
　すなわち、宮清めの出来事を文書の後半に記すマタイ、マルコ、ルカの福音書に対し、ヨハネは極めて初めの部分にこれを配している。そこに はたして、ヨハネのどんな編纂意図があったのか、という問題でした。
・これを考えるにあたっては、以下の情況がヒントになるように思われます。
①紀元 70 年、ローマ帝国により、エルサレムが陥落。神殿も崩壊した。
②これを受け、祖国の一致堅持のため、ユダヤ教が律法教育を強化。
③こうして、教会は国内外から、いっそう激しい圧力を受けるところとなった。
④ヨハネ福音書が編纂されたのは、その最中(さなか)、90 年代のことである。
⑤こうしたなか、ヨハネは本文の冒頭の直後に、より厳密には イエスの公然たる公の宣教の最初に宮清めの出来事を配した。
　＊これに先立つ「カナの婚礼」は 公然たる公の・・・ではなく、どちらかと言えば、内輪的になされている。
・はたして、ヨハネはいかなる意図から、宮清めの記述を今ある場所に配したのでしょうか。ひょっとすると、今日(こんにち)にも通じる 小さくない何事かがそこに語られているのかもしれません。